

第 17 回日本在宅医学会もりおか大会 一般・指定演題

(研究報告) 抄録用紙

|                    |                                               |
|--------------------|-----------------------------------------------|
| 演題名<br>(全角 80 字以内) | 在宅医療における緊急対応                                  |
| 演者名                | 小野宏志 1) 西澤由佳 1) 鳥羽昭三 1)<br>細田修 2) 小野秀子 1)     |
| 所属                 | 医療法人社団心<br>坂の上ファミリークリニック 1)<br>坂の上在宅医療支援医院 2) |

|                                     |                                                                                        |     |
|-------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|-----|
| 研究方法<br>(右から番号を選び NO. 欄に番号をご記入ください) | 1. 症例報告 2. 症例シリーズ報告 3. コホート研究<br>4. 症例対照研究 5. 調査研究 6. 介入研究 7. 二次研究<br>8. 質的研究 9. その他研究 | NO. |
|                                     |                                                                                        | 5   |

目的：在宅医療は、慢性疾患の管理はもとより、看取り、さらには家族へのサポートや急な症状の悪化への対応までも含まれ、当然救急医療の要素も含まれる。在宅医療においても、安心した生活のためには救急医療は保障されなければいけない。

そこで、平成25年10月から平成26年8月までの間の緊急往診や緊急訪問看護の件数、救急搬送の件数等を調査した。

方法：

緊急対応を、1) 緊急往診にて解決 2) 緊急往診後に搬送 3) 緊急訪問看護にて解決 4) 緊急訪問看護後に搬送 5) 訪問せずに搬送 に分類しその数を調査した。

結果：

- 1) 緊急往診にて解決 : 計 1,701 件 月平均 154.6 件
- 2) 緊急往診後に搬送 : 計 97 件 月平均 8.8 件
- 3) 緊急訪問看護にて解決 ; 計 729 件 月平均 62.3 件
- 4) 緊急訪問看護後に搬送 : 計 14 件 月平均 1.3 件
- 5) 訪問せずに搬送 : 計 29 件 月平均 2.6 件

考察：在宅医療における救急医療は求めることが一般の健常者とは多少異なる。在宅医療においては救命や完治も求めることはあまりない。出来るだけつらい症状が無く、安心して自宅での暮らしを続け、安らかに最期の時を迎えることが在宅医療における救急医療の目的である。

しかし、在宅医療を受け、あるいは末期の状態であると言うことで、救急医療の現場では不適切な対応を受けることがある。患者さんやご家族は、不安が解消されれば自宅での生活を続けたい、病院で症状を緩和し、家に戻りたいという気持ちを持っている。救急搬送されるということは、自宅での生活は困難と判断され、療養病床への入院や施設への入所を決められてしまう。安心して暮らすために、病院に行き、その救急医療があつて、日常生活が成り立つのである。

今回の調査において、緊急訪問が単に救急車の出動回数を減らしていると言うだけでなく、在宅療養者とその家族に大きな安心を提供していることが判断できる。

今後、高齢化が進む社会、多死社会において、在宅療養者とその家族が安心して自宅での暮らししていくためには、24時間365日対応できる在宅医療の充実は必須である。